



優秀賞 (総合部門)

リフォーム前後の写真

タイトル

対話のある住まい

タイプ

持家共同建

講評

リノベーションプロジェクトのモデルルームとして設計されたもの。土間とアネックスなど新しいコンセプトがあり、作品の質は高いが、居住者が設計に関わっていないため、当コンクールにはなじみにくい面がある。



土間(玄関)
外部を引き込んだような土間。擬似的な庭としても利用できる縁側のような風情を持たせた場所。

①玄関



アネックス(離れ)
プライベート空間と分離させた離れ。家族の成長やスタイルに応じて、使い方を变化させられる。

②洋室2



リビング・ダイニング
開放的なリビング・ダイニング
家族の中心的な空間として、コンパートメントと緩やかな繋がりを持たせた伸びやかな場所。

③リビング・ダイニング



コンパートメント(居室)
機能を集約させたコンパートメント
長屋のように配置された居室は、お互いの気配を感じながらも落ち着いた場所を作り出している。

④和室



①玄関を開けると広がる土間



②離れのようなアネックスルーム



③アネックスルームから土間を見る



④キッチンからリビング・ダイニングを見る



⑥窓側からリビング・ダイニングを見る



⑥ベッドと机が備わったコンパートメント



⑦クローゼットによって仕切られたコンパートメント

| | |
|---|--|
| リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など | |
| 《リフォームの動機》 | 家族と社会の対話を生み出し、擬似的な外を内包しています。 |
| 中古社宅を集合住宅に再生させるリノベーションプロジェクトの一部としての住戸改修。一般的な4LDKではなく、これから家庭を築いていく若い夫婦のための、新しい生活の場として再生を求められた。 | また、土間によって分離した離れのような部屋は、家族のスタイルや成長に応じて自由に変化させていくことができる空間です。 |
| 《設計・施工の工夫点》 | 施主は、緩やかに繋がるリビングと居室の関係性を気に入れています。 |
| 個人のための居室は、機能を集約させ、長屋のような最小限の空間を配列することで、広い共有空間を確保しています。玄関から広がる土間は、外部を引き込む中庭のような場所として、 | |
| 特に配慮した住宅性能：室内温度差の軽減・風通り・可変性・メンテナンス性 | |
| データ | |

| | | | |
|--------|--|---------|--------------------------|
| 所在地 | 神奈川県川崎市 | 構造/築後年数 | 鉄筋コンクリート造 / 11年 |
| 該当工事面積 | 95.48 m ² / 総工事床面積 95.48 m ² | 該当部分工事費 | 1,700 万円 / 総工事費 1,700 万円 |
| 居住者構成 | 15歳以上65歳未満: 2人 / 65歳以上: 1人 / 15歳未満: 0人 / ベッド: 猫1匹 | | |
| 設計者 | 松井亮建築都市設計事務所 | 担当者 | 松井 亮 |
| 施工者 | (株)スルガコーポレーション | 担当者 | 今井 勇次 |

リフォーム前

BEFORE PLAN



SCALE=1/200

リフォーム後

AFTER PLAN



SCALE=1/200